

■ 第1回参加促進部会での主なやり取り

参加促進部会の設置趣旨、万博への参加の枠組みとして、協会が用意する枠組み（ボランティア、参加催事）、府市の取組み（子どもの無料招待、修学旅行等の誘致）、国が用意する枠組み（国際交流）などにおける主な課題と検討事項やスケジュール感等を共有。

参加促進部会の設置趣旨

- 万博の成功には、**世界中から一人でも多くの方々が万博に参加できるよう、国内外から人材や投資を呼び込む仕組み**を作っておくことが重要。
- 子どもから高齢者、障がい者、外国人、自治体、各種団体など、**多様な方々が積極的に万博へ参加できる枠組みを整備し、参加を促すことで、教育や福祉、府内各地域の都市魅力の向上・発信、国際交流など各部局の所管する施策を推進する絶好の機会**とし、**大阪の持続的な成長・発展につなげていく。**
- そこで、**参加促進部会では、多様な方々の参加促進に向けて、大阪府・市関係部局が主体的に取り組む、実現すべきもの**について、課題への対応や事業化に向け、協議等を行うものとする。

参加促進部会での意見等

【自治体の催事参加】

協会では検討中の催事に関する基本的な考え方については、確定前には府内市町村への情報共有が必要ではないか。

【子どもの無料招待】

無料招待の対象範囲については、小・中学校以外も含めて、今後検討。参考に愛知博では小・中学校を無料招待の範囲としていたが、大阪・関西万博の対象範囲については、議論が必要。

■ 第1回参加促進部会からの進捗（報告）

検討項目	課題・検討事項	進捗状況
① ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活動内容・範囲・場所等を検討（万博会場内・外、大阪パビリオン内も含めて検討） ・府内市町村や既存ボランティア団体等との関わり方、ボランティアセンター等のレガシー化を検討 <p>【協会と協議を要する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会と府市の役割分担、府市の関わり方 ・ボランティアセンターの設置のあり方（協会と合同設置 or 府市単独設置） ・合同設置とした場合の費用負担 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの運営に関し、協会と万博推進局でWGを開催（8月から11月まで3回実施） ・過去の大規模イベントについて、万博推進局よりボランティア協会、東京都、大阪マラソン組織委員会、府・府民文化部（ラグビーワールドカップ関係）にヒアリングを実施（8月～11月までそれぞれ実施）
② 高齢者・障がい者等多様な方の催事参加	<ul style="list-style-type: none"> ・協会が策定予定の催事基本計画を踏まえ、多様な方の催事参加について検討 ・高齢者や障がい者等への積極的な支援のあり方や、催事募集時の周知方法や周知ルート等を検討（万博会場内、大阪パビリオン内も含めて検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者等が催事に参加する際の協会への意見要望等について、府・福祉部、市・福祉局、万博推進局で打ち合わせを実施（8/23実施） ・催事に関して、協会と万博推進局で現時点の考え方について意見交換を実施（11/2実施）
③ 府内の子どもの無料招待	<ul style="list-style-type: none"> ・無料招待の対象範囲、事前学習の実施についての検討 ・スケジュールの検討（各学校・協会との調整、予算要求時期） ・無料招待時の会場内での見学メニュー等の検討（万博会場内、大阪パビリオン内も含めて検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象範囲、事務スキーム等を府・教育庁、福祉部、市・教育委員会事務局、子ども青少年局で打ち合わせを実施（8/25実施）

スケジュール（想定）

4/13
 ~
 10/13
 大阪・関西万博開催

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(1)①__ボランティア	部会での検討 協会との協議 予算要求 基本的な方向性（案）作成 部会での検討 協会との協議	ボラセン等設置 ボラセン等運営 募集・面接	研修実施	レガシー化
(1)②__高齢者・障がい者等多様な方の催事参加	（部会）多様な方の催事参加の手法検討	団体等を通じた参加の呼びかけ ● 催事参加募集開始（2023年度中）		
(1)③__府内の子どもの無料招待	（部会）無料招待のスキーム検討、協会との購入に向けた調整 入場料：国の承認（未定）	予算要求 入場券販売（未定）	協会との調整等 各学校での事前学習の実施	
(2)①__自治体の催事参加	予算要求 （部会）実施方針・体制の検討	催事計画策定 催事計画策定に向けた調整 催事計画（中間報告） ● 予算要求	催事計画に沿って事業実施 ● 予算要求	
(2)②__国際交流	国の概算要求 （国）制度設計（調査事業を実施予定。）	（部会）制度設計状況に応じて府市としての対応を検討	府内市町村の実施・フォロー等	万博終了後も交流の継続
(2)③__全国からの修学旅行等の誘致	（部会）経済団体の動きを確認して、府市としての対応を検討	（部会）大阪観光局等と連携した誘致施策・PR及び全国知事会や首長連合等での呼びかけ ● 予算要求	● 予算要求	

■ 参加促進部会参画部局の予算要求の状況について（報告）

（各予算要求資料より抜粋）

調整中

部局・所属	事業名	事業概要
① ボランティア		
【府市】 万博推進局	大阪・関西万博会場外ボランティアにかかる運営の実施	住民等一人ひとりに万博開催の担い手になってもらうよう、万博を共創する身近な枠組みとして会場外のボランティア運営を実施。 ボランティアが大阪・日本の顔として、万博の来場者や国内外の旅行者をお迎えすることで、来場者や旅行者がいたるところで万博の開催機運を感じられる。また、活動に参加するボランティア自身が情報発信等を行う事で、開催機運の盛り上げにつなげていく。
② 高齢者・障がい者等多様な方の催事参加		
【府】 福祉部	障がい者文化芸術活動推進事業	障がいのある人、ない人が混在するチーム（演劇、ダンスなど）が作品を発表する機会を創出し、障がいのあるアーティスト、伴走支援者を発掘するとともに、障がいのある人が様々な立ち位置で参画する舞台芸術分野のPRを行う。 （備考） 万博の大阪パビリオンまたはメイン会場のイベントタイムスケジュールの1コマ等を利用
③ 府内の子どもの無料招待		
【市】 教育委員会事務局	大阪・関西万博にかかる学校園への啓発及び参加事業	大阪・関西万博へ向け、全学校園の幼児児童生徒がSDG sを学び、万博のテーマである「いのち輝く未来社会」へ向けて機運醸成を図る啓発を行う。 啓発の過程で学習したことを踏まえて、実際に万博を体験することで、SDG sへの関心を高めるとともに、持続可能な社会を担う人材の育成を目指す。 （備考） 万博無料招待の事前学習と位置づけ、無料招待に繋げる。

■ 参加促進部会参画部局の予算要求の状況について（報告）

（各予算要求資料より抜粋）

調整中

部局・所属	事業名	事業概要
③府内の子どもの無料招待		
【府】 教育庁	「わくわく・どきどきSDGSジュニアプロジェクト」推進事業費	プロジェクト参加校において「2025年日本国際博覧会協会教育プログラム」を活用し、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする万博やSDGSについて知り、地域の具体的な課題の解決に向けて他者と協働しながら進める探究学習を通して、社会に主体的に参画していくための資質・能力を育成するとともに、その成果をフォーラムの開催によって広く府内全体に発信し、取組みを普及する。
④自治体の催事参加		
【府市】 万博推進局	自治体の催事参加	大阪府市として、自治体の催事参加の実施方針及び実施体制を参加促進部会で検討予定。大阪府市デーン等を想定し、府内市町村を巻き込みながら一連のコンセプトを持った催事計画を策定。
⑤国際交流		
【府市】 万博推進局	市町村での主体的な取組みの誘発	各市町村において、機運醸成を主体的、積極的に進めていただく契機を創出する事業として、府市町村局とも連携し、以下の取組みを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の首長が一堂に会する「万博サミット」を開催。このサミットを契機に、各市町村の万博に向けた取組みを具体化・加速化させていく。 （ホストタウンの先行事例に関するシンポジウムの実施も検討） ・万博本番での催事出展に向けた予行演習等を目的として、「府内市町村プレ万博（仮称）」を開催。なお、G7やIPM等の時期に合わせ開催することで、国際交流や海外PRにもつなげる。なお、本イベントについては、バーチャル大阪の活用も検討する。

所属名	大阪市教育委員会事務局	課（担当）	指導部 初等・中学校教育担当
事業名	大阪・関西万博にかかる全学校園への啓発及び参加事業		
事業性	新規事業	府市事業	市単独事業
対象事業	② 「機運醸成アクションプラン」に該当する関連事業		

○対象事業に該当すると考える理由

（実施しようとしている事業内容が対象事業のどこに該当しているのかを明確に記載し、事業を実施する事で、万博の開催に対してどの様に寄与するのかを詳細に記載）

「大阪・関西万博の成功に向けた機運醸成アクションプラン（ver1.0）」で示されている教育プログラムを活用した取組「わくわくどきどきSDGsジュニアプロジェクト」へ令和3（2021）年度は1校参加、令和4（2022）年度は「わくわくどきどきSDGsジュニアプロジェクト」へ9校参加をはじめ、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会の教育プログラムの周知等、各校でのSDGsへの取組が徐々に増えてはきているが、全市全体で見るとかなり少ない数となっており、全幼小中学校及び義務教育学校で、大阪・関西万博に関する学習に取り組むことができる環境を整備し関心を高めること必要である。

そこで段階を経て 令和5（2023）年度に、大阪・関西万博へ向けて、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会の「教育プログラム」を活用し、その読本・指導書を活用し、独自資料を作成し併せて、全小中学校及び義務教育学校へ配付。令和6（2024）年度には啓発を進めるリーフレットを作成し、全学校園へ配付し、大阪・関西万博への機運醸成を図る。令和7（2025）年度には全学校園の幼児児童生徒を大阪・関西万博へ招待し、これまで学習したことを踏まえ、実際に体験する。

よって、当該事業を実施する事により、全学校園で万博の機運醸成に寄与できると考えられることから対象事業に該当すると考える。

○万博開催までの年度別事業計画（概要）

年（年度）	2023年（令和5年度）	2024年（令和6年度）	2025年（令和7年度）
事業目標	・児童生徒がSDGsを学び、「いのち輝く未来社会」へ向けて機運醸成を図る啓発を行う。 ・万博・SDGsに対する理解向上児童・生徒の割合を60%以上	・幼児児童生徒がSDGsを学び、「いのち輝く未来社会」へ向けて機運醸成を図る啓発を行う。 ・万博・SDGsに対する理解向上児童・生徒の割合を60%以上	・大阪・関西万博を実際に体験することで、SDGsへの関心を高めるとともに、持続可能な社会を担う人材の育成を目指す。
事業計画（概要）	全小中学校及び義務教育学校へ万博読本、指導書を製本し、配付。	全学校園へリーフレットを作成し、配付。	全学校園の幼児児童生徒を大阪・関西万博へ招待。
事業費（千円）	予算	1,117千円	3,160千円
	決算	479,788千円	
次年度の予算要求にて入力・使用します			

①教育委員会における取組

大阪・関西万博にかかる全学校園への啓発及び参加事業

【現状】

- ・令和3（2021）年度 「わくわくどきどきSDGsジュニアプロジェクト」へ1校参加
- ・令和4（2022）年度 「わくわくどきどきSDGsジュニアプロジェクト」へ9校参加

【目標】

⇒大阪・関西万博へ向けて、全学校園の幼児児童生徒がSDGsを学び、万博のテーマである「いのち輝く未来社会」へ向けて機運醸成を図る啓発を行う。また、啓発の過程で学習したことを踏まえ、実際に万博を体験することで、SDGsへの関心を高めるとともに、持続可能な社会を担う人材の育成を目指す。

【目標を達成するまでの行動計画（予定）】

- ・令和5（2023）年度に、大阪・関西万博へ向けて、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会の「教育プログラム」を活用し、その読本・指導書を全小中学校及び義務教育学校へ配付する。全幼小中学校及び義務教育学校で、大阪・関西万博に関する学習に取り組むことができる環境を整備し関心を高める。
- ・令和6（2024）年度には啓発を進めるリーフレットを作成し、全学校園へ配付し、大阪・関西万博への機運醸成を図る。
- ・令和7（2025）年度には全学校園の幼児児童生徒を大阪・関西万博へ招待し、これまで学習したことを踏まえ、実際に体験する。これらの事業を通して、SDGsへの関心を高めるとともに、持続可能な社会を担う人材の育成を目指す。

【工程表】

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
取組内容	全小中学校及び義務教育学校へ万博読本、指導書を作成し、製本、配付	全学校園へリーフレットを作成し、配付	全学校園の幼児児童生徒を大阪・関西万博へ招待

■ 直近の府議会・市会での質疑・答弁

③ 子どもの無料招待について

会派・議員	質 疑	答 弁
<p>【府議会】 公明 加治木議員 令和4年 9月定例会 代表質問</p>	<p>【子どもの無料招待について】 万博が地元で開催されることは、将来の大阪を支える子どもたちにとっても様々な体験ができる有意義な機会である。来年度には入場券販売が始まると聞いているが、<u>愛知万博の対応は。無料招待に向けた現在の検討状況について万博推進局長の所見を伺う。</u></p>	<p>愛知博では、県内の国公私立の小・中学生など約60万人が学校行事として万博を見学した際、<u>県が入場料全額を負担した。</u> 参加促進部会において、過去の事例や、入場券制度の検討状況を踏まえ、<u>対象者の範囲や無料とする手法など、課題への対応策について、引き続き教育庁など関係部局と協議等を重ね、進めていく。</u></p>
<p>【府議会】 公明 加治木議員 令和4年 9月定例会 総務常任 委員会</p>	<p>【府内の子どもの無料招待について】 無料招待の対象者の範囲や無料とする手法など、教育庁等の関係部局と検討していくことになると思うが、<u>まずは、公立・私立いずれの学校に通う児童・生徒も対象にすべき。そのうえで、私立学校に通う生徒について、府外から通う生徒も対象としていただきたい。</u></p>	<p>子ども達の万博への無料招待については、参加促進部会において、愛知博の事例や、博覧会協会における入場料制度の検討状況も踏まえながら、<u>無料招待の対象となる子どもの範囲や無料とする事業スキームの構築、必要となる予算の確保など、教育庁などと協議を重ねて進めていく。</u></p>
<p>【市会】 公明 今田議員 令和4年 9月 特別委員会</p>	<p>【子どもの無料招待について】 校外学習などの機会を捉えて、大阪・関西万博の会場に直接足を運んで、最先端の技術に触れ、今後の未来社会に思いを馳せるといったような体験ができれば、子どもたちにとっても貴重な忘れられない思い出になる。 <u>開幕まで1000日を切っているが検討の進捗状況は。</u></p>	<p>子どもたちが大阪・関西万博を訪れ、会場の至る所で展開される技術実証や最新のサービスを体験することは、子どもたちが未来社会に夢と希望を抱く絶好の機会であると認識。このような経験が、将来の大阪を支える子どもたちにとって大きな財産になると考えている。 教育委員会では、関係機関と連携し、<u>大阪・関西万博への児童・生徒の参加について、段階的に検討、準備を進めていると聞いている。</u> <u>参加促進部会において、教育委員会をはじめ関係各局との協議等をし、課題への対応や事業化に向け、しっかりと進めていく。</u></p>

万博開催（2025年）に向け、各検討項目の最終的な目標を設定し、当該目標を達成するための手法や具体的な取組を検討する。検討内容については、今年度中に参加促進部会で共有を行う。

以下、万博開催にあたっての取組を関連部局で検討のうえ、2023年度、2024年度、2025年度に取り組むべき内容を整理する。

※国、博覧会協会の動向、情勢等により、適宜、設定目標を見直す。

検討項目	万博開催にあたっての取組	関連部局
①ボランティア	約1万人のボランティアが、大阪・日本の顔として、万博開催期間中に、国内外からの来場者や旅行者が会場や大阪で快適に過ごせるよう、万博情報の案内や観光案内、交通案内などの活動を行う。	府：府民文化部（府民文化総務課、企画・観光課）、 福祉部（福祉総務課、地域福祉課、 障がい福祉室、介護支援課、子ども青少年課） 市：北区、大正区、東淀川区、 経済戦略局（観光課、スポーツ課）、 福祉局（高齢福祉課） 万博推進局
②高齢者・障がい者等多様な方の催事参加		府：府民文化部（府民文化総務課）、 福祉部 （福祉総務課、地域福祉課、 障がい福祉室、介護支援課） 市： 福祉局 （高齢福祉課） 万博推進局
③府内の子どもの無料招待		府： 教育庁 （教育総務企画課、高校教育改革課、 小中学校課、私学課） 市：北区、大正区、東淀川区、 子ども青少年局（総務課）、 教育委員会事務局 （総務課） 万博推進局

2025年大阪・関西万博推進本部会議 第2回参加促進部会

《会議要旨》

- ▶ こどもの無料招待について、予算資料内で小中のみでなく、幼児も対象となっているが、対象範囲の協議等が進んでいるのか。(福祉部子ども青少年課)

⇒これから議論を進めていくものである。(万博推進局)

資料は、大阪市教育委員会の資料であるが、対象範囲等は現時点の想定で検討を進めている。議論が進む中で、変更が生じる可能性がある中、検討を進めている。(教育委員会事務局)